

令和 4 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (1) 教育の質的転換に関する事業

申請組織 大学運営会議 入学広報実施委員会

申請組織長 役職名 入学センター長 氏名 栃 窪 優 二

統括責任者 役職名 入学センター長 氏名 栃 窪 優 二

課題名 入学前教育（スクーリング）の実施

	役 割	氏 名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	栃窪優二	入学センター長	統括
	副代表者	石原久代	副入学センター長	統括補佐
	各学部責任者	本山 昇、田所光男	学部長	各学部事業実施
		山口雅史、脇田泰子	〃	〃
		黒田達朗、竹内聖彦	〃	〃
		杉浦美佐子	〃	〃
	事務統括	堀田圭一郎	学務部長	事務統括
		石橋法久	入試課長	実務担当

1. 事業開始の背景・経緯や目的等（200 字～300 字程度で記述）

文部科学省の大学入学者選抜実施要項において「各大学は入学手続をとった者に対し、必要に応じ、これらの者の出身高等学校と協力しつつ、入学までに取り組む課題を課すなど、入学後の学習のための準備をあらかじめ講ずるように努める」とされている。

本学では、平成 26 年度より合格者が安心して、入学できるように入学前教育（スクーリング）を実施してきた。

スクーリングの主な目的は、①大学教育への期待と自覚を高めることによる、モチベーションの維持・向上、②入学前の不安の解消、③大学の教育内容についての理解を深めて、入学後のスムーズな学修につなげることである。

スクーリングは今年で 9 年目となり、各学部学科のプログラムも毎年見直し、充実してきている。

2. 事業方法（特色・独創性）等（300 字程度で記述）

・入学前スクーリング（第 1 回）は、総合型選抜（AO 選抜）および学校推薦型選抜の合格者を対象とし、入学前スクーリング（第 2 回）は、第 1 回の参加者に加え「一般入試 A」「大学入学共通テスト利用入試 A」および「一般入試 B」の合格者を対象に、すべての学科の学生が参加できるように計画した。

・入学前スクーリングは、課題の提示、先輩学生とのディスカッション、卒業作品や卒業研究発表の鑑賞・聴講など、学部・学科の教育内容や興味・関心を高める内容としている。また、こども園などの実習先（将来の進路先）の見学なども実施した。

・遠隔地の参加者には、学生寮を無償で提供した。

・大学内での活動中の不慮の事故に備え、参加学生は、全員、傷害保険に加入した。

3. 事業の成果（600字～800字程度で記述）

先述のとおり、スクーリングの主な目的は、①大学教育への期待とモチベーション維持・向上、②入学前の不安解消、③大学の教育内容理解と入学後のスムーズな学修につなげることである。

入学前スクーリング参加者は、大学での学びを知ることができるだけでなく、教員や在学生との交流を通じて、人間関係を構築するきっかけとなり、4月以降の学生生活に対し、安心感と期待感を持つことができる。

併設校からの入学予定者は全員申込みをしており、当日体調不良による欠席者を除いて、高い参加率となっている。コロナ禍では通常、入学前スクーリングは「対面実施」を原則としているが、本年度も昨年に続きコロナ禍であることを考慮し、「対面」以外に「オンデマンド」「リアルタイム配信」「課題」等で実施することとした。12月に実施した第1回入学スクーリングの参加者は、管理栄養学科（オンデマンド）、メディア情報学科（オンライン）を除き、第1次入学手続き数の76.7%であった。

本事業の目的である入学者のモチベーションの維持・向上のため、各学部学科が以下のような工夫を凝らしたプログラムを準備した。

管理栄養学科：“小麦粉の正体を探る”、課題レポート提出

生活環境デザイン学科：課題発表と講評

国際言語コミュニケーション学科：インターナショナルティーチャーズが英語で行うアクティブラーニング（速読、語彙学習、マインドマッピング、スピードライティング）

表現文化学科：グループワーク「多様な社会・文化の中でみられるジェンダーの問題について考える」

人間関係学科：人間関係トレーニング、少人数ワークショップ（人間関係学科の学び体験）

心理学科：“パーソナル・スペース”の測定に関する心理学実験

文化情報学科：“世界遺産と世界遺産検定”、“デジタル情報資源を使ってみよう”

メディア情報学科：学力把握、ネットリテラシー入門、在学生によるプレゼンテーション

現代マネジメント学科：ビジネスプランコンテスト動画鑑賞、グループワーク・発表

子ども発達学科：こども園見学、交流アクティビティ、在学生スピーチなど

看護学科：動画視聴、ドキュメンタリー「最期の写真」の視聴、感想についてグループワーク・発表

4. キーワード（本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載）

①入学前教育	②モチベーション	③不安解消	④入学後への繋ぎ
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題（事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。）

4月以降に提出される課題をもって入学前教育（スクーリング）は完了となるが、4月の入学以降の学修に繋げていけるようにすることが課題と言える。

毎年、各学部学科の内容を見直し、充実したプログラムとなってきた。入学後の学修に繋がるスクーリングを行うことによって、受講生徒の入学意欲が強くなり、またそれが高校からの評価となって学生確保にも繋がっている。

入学前スクーリング参加者に対しアンケート調査を実施した学科では、集計結果において人間関係の構築や大学における学びへの期待など、入学前スクーリングへの満足度が非常に高いことが伺えた。入学前スクーリングを実施しない学科もあったが、入学後の大学生活や学びへのスムーズな移行のため、今後は何らかの方法で全学部学科において入学前スクーリングが実施されることが望まれる。